



後援

横浜市教育委員会
横浜市立大学

記念誌発行 | 2024年3月31日

(無断転載・引用禁止)

特定非営利活動法人 子ども大学よこはま 事務局

〒226-0027 横浜市緑区長津田1-22-2-38

☎ 090-2174-1291 ✉ uketsuke@childrenuniversity-yokohama.com

<https://www.childrenuniversity-yokohama.com/>

榊原洋一学長 あいさつ

皆さんが通う小学校では、もうすでに知っていること、わかっていることを学びます。
大学は、それに加えて、まだ誰も知らないことを勉強し研究します。
自ら進んでこの大学に集まったみなさんには、想像力と探究力を身につけて
未知の課題を解決し未来の世界を創る人になってほしいです。

講師紹介

第1回

「ひとりじゃないよ」
—自分も相手も大切にする関わり方—



そえじま まさかず
副島 賢和先生

昭和大学大学院保健医療学研究科准教授
ホスピタルクラウン

第2回

チェンジメーカーになろう！
—持続可能な地球社会のつくりかた—



うえむら たけひこ
上村 雄彦先生

横浜市立大学
国際教養学部教授

さかきはらゼミ

どうしたら病気にならない
健康的な生活ができるか？



さかきはら よういち
榊原 洋一先生

医学博士、チャイルドリサートネット所長
お茶の水女子大学名誉教授、日本子ども学会理事長

第3回

地球最後のフロンティア『深海』
—潜水船しんかい6500パイロットの話—



たしろ しょうぞう
田代 省三先生

JAMSTEC海洋科学技術戦略部アドバイザー
日本海洋事業アドバイザー
潜水調査船元パイロット

第4回

港とわたしたちの生活の
かかわりを考えよう！
—横浜港の歴史と役わり—



みき あや
三木 綾先生
横浜みなと博物館学芸員

第5回

世界の子どもたちは今



マリ・クリスティーン先生
異文化コミュニケーション
国連ハビタット協会副会長
元国連ハビタット親善大使

感想文集

4

年生

子ども大学よこはま9期生

「大学ってどうゆう所かな」と思いながら行きました。小学校とは違うふん囲気で少しきんちょうしました。第1回の先生は副島まさ和先生でした。院内学級や入院している方の気持ちについてのじゅ業でした。病院には入院している子ども達のための学校があるのだと知りました。自分が病気になったらじゅ業が楽しみになるのかなと思いました。

第2回のじゅ業は上村たけひこ先生の「チェンジメーカーになろう」でした。むずかしくて上の学年のお兄さんやお姉さんがしつ問をされていてすごいなと思いました。本をいただいたのでいつか読みたいです。

第3回のじゅ業は田代省三先生の「地球最後のフロンティア『深海』」でした。深海にはきょう味があったので、深海に住む生き物のどくどくな姿が見られておもしろかったです。

第4回のじゅ業は横浜みなと博物館学芸員の三木あや先生が教えてくださりました。子ども大学に行く前に博物館や日本丸を見て行きました。横浜港は長いれき史があって人々の生活をささえている所なのだと思います。

第5回のじゅ業はマリ・クリスティーヌ先生の「世界の子どもたちは今」でした。学校でも世界の子どもについて勉強しているので分かりました。自分も世界の子どものためにできる事があればやりたいと思いました。

私が学んだ事

私は子ども大学よこはまに通ってみて、日本のことから世界のことまで、幅広く知ることができて良かったと思います。5回の授業の中で一番心に残った授業は、第5回のマリ・クリスティーヌ先生の授業です。世界には貧しくて勉強がしたくても働かなければならない子供がたくさんいるという事を先生から学びました。私は学校に通えて幸せだと思いました。学校で勉強をもっとがんばりたいと思いました。学校に通いたくても通えない子供たちのために、私だったら何をしてあげられるだろうと深く考えました。私がもし貧しい国の人たちに何かしてあげる事ができる立場だとしたら水道を引いてあげたり、浄水器の作り方を教えられる先生を派遣してあげたりしたいです。他にも色々な技術を教えてあげたいです。

感想文集

5年生

子ども大学2年目をふりかえって

私は、この1年間を通していろいろな先生から、学校では学べないことを教わったり、初めてしゃべる人と一緒に考えたり、話すことができました。なかでも、4回目の授業が楽しかったです。横浜港の成りたちや船のことそれから貿易のことなどを学びました。また、さかきはらゼミも面白かったです。話したことのない人としゃべると、ふだん話している人とちがっていろいろな考えをもった人がいるということを実感できました。私はこの2年間子ども大学に行き、さまざまな先生から、たくさんのことを教えてもらいました。将来、私は、先生達から教わったことを生かしてみんなの役に立てるような人になれるようにがんばりたいと思います。ありがとうございます。

私が考えたこと

私が一番印象に残った授業は、第5回、マリ・クリスティーヌ先生の世界の子どもたちは今です。まず先生が最初に話していた異文化コミュニケーションの事です。私は、異文化コミュニケーションの意味を知らなかったし、あまり聞いた事もありませんでした。自分が気づいていなかっただけで、いろいろな場面で異文化に関わっている事を知り、おどろきました。次に、スラムの事です。私はスラムの事が気になり、家で調べてみました。すると、インドのムンバイの人口、約54%がスラム街であるダーラーヴィ地区に住んでいる事が分かりました。私は人口の半分以上がスラムに住んでいる事を知り、さらに興味を持ちました。私はマリ先生の授業を聞いて世界の子どもたちやスラムに興味を持ち、いつか行って、現地の人と話してみたいと思いました。

子ども大学でのいろいろな発見

私は、子ども大学でいろいろなことを学びました。

「地球最後のフロンティア『深海』～潜水船しんかい6500パイロットの話～」という授業では、深海の話や、しんかい6500の貴重な話を聞くことができました。深海には興味があったので、興味深い体験を聞くことができてうれしかったです。「チェンジメーカーになろう！-持続可能な地球社会のつくりかた-」という授業では、世界の問題について学びました。1%の大富豪が、36億人分の富を持っていると知った時は、とてもおどろきました。もう知っていると思っていた内容でも、新しく学ぶこともたくさんありました。

私は、子ども大学だけではなく、いろいろな所で、いろいろな事を学びたいです。

さかきばらゼミ

ぼくは、もともと細ぼうや病気に興味がありました。さかきばら先生のお話で、まだ知らない事がたくさん出てきたので、もっと知りたい、調べてみたいと思うようになりました。

先生の話もおどろいたし、ぼくも調べてみると、まだまだ知らない病気や、ジャンルなどがあっておどろきました。

また、グループの時の友達は、病気や、病気の原因についてもくわしく知っていて、それも、すごいと思いました。

それに、さかきばら先生は、病気は消せないが、移りにくくする取り組みや、予防、ちりょうの高度な開発も進められていると、おっしゃっていました。

また、病気は私たちの体に何もたくさんついており、いつ、どこでかんせんするなど分からない。なので、どんな時でもけいかいする努力が必要、とも言っていました。

この事から自分は、病気は、つらく、苦しく、なおらないものもあるかもしれない。けれども、全員がかからないための協力や、努力をして、病気にもっとくわしくなれば予防ができて、病気になったとしても、知識や頭脳があれば、恐れず、ちりょうができるようになれると思いました。

ぼくは、このさかきばらゼミで、病気は恐ろしく、そしておずかしい事なのだと分かりました。ですが、病気になったとしても、ポジティブにいれば、病気もなおりそうかな、と思います。それをふまえて、いつも心が元気でいるようにしたいと思います。そして、病気を調べる研究者になって、病気を少しずつでも治す薬を作りたいです。

一番印象に残ったこと

私は、「世界の子どもたちは今」が一番印象に残りました。理由は2つあります。

1つ目は、ハンバーガーを食べるのに、水がたくさん必要なことを初めて知りました。いつも気にしていなかった水の量が、1つのハンバーガーにたくさん使われていたのです。

2つ目は、グループでの話し合いがあります。私が思いつかなかった考えがたくさんあり、初めて知ったこともありました。

これから私は、食べたり買ったりする時にどのくらいの量の水を使っているのかを考えてみようと思いました。

子ども大学の感想

ぼくは、子ども大学にいったととてもよかったと思いました。理由は、先生たちの今までのことを分かりやすくみじかくいったので、あまることもなく考えられました。みんなと話し合いする時もいっしょに参加してくれたりクイズみたいにしてくれてありがとうございます。ぼくは、子ども大学にいったおかげで4年生の時よりも集中する時間が長くなったと思います。ぼくが、一番印象に残った授業は、地球最後のフロンティア『深海』です。理由は、深海には、こんな深海魚がいるんだよと教えてくれたり、田代さんの乗っていた船のしくみを分かりやすく、おもしろく説明してくれたからです。ていねいに分かりやすく教えてくれてありがとうございました。

子ども大学よこはまの思い出

私がこの1年間子ども大学よこはまに参加して、一番印象的だったのは、田代省三先生の「しんかい6500」の話です。私は今まで、宇宙に行きたいと思ったことは何度かあります。しかし、深海については考えたこともありませんでした。

先生の話で心に残ったことは、しんかい6500が思ったより小さかったことです。私はしんかい6500は電車1両くらいの大きさだと思っていました。しかし、実際は、全長10mで、人が入れるのは内径2mしかありませんでした。そして、その狭い空間に3人も入ります。もっと広ければ自由に動けて、快適になると思います。広くて、沢山の人が入れれば、一度に沢山の専門家を乗せて、もっと速く研究ができるようになると思います。しかし、船が大きくなるほど水圧に負けやすくなるそうです。

深海の研究には、海に関わる人はもちろん、機械や金属に関わる人など、色々な人の努力が集まっていることが分かりました。そうして私達が深海6500mもの世界が見えることに感動しました。

子ども大学よこはまは、色々な分野の先生が興味深い話をしてくれるので、来年も参加したいです。先生方、事務局のみなさん1年間ありがとうございました。

子ども達の生活は今

私は、子ども大学第1、5回が心にのこりました。

第1回は、副島先生の講義でした。副島先生は、みんなに分かりやすく、おもしろく教えてくれました。私はこの講義で、病院内学級を知りました。病院で勉強する事は、できるとは思っていたけれど、病院にも教室のような場所があると知って、入院しててもいろいろな事が学べて、すごいと思いました。副島先生は、病院で入院している子ども達の不安を少しでもやわらげるために、赤鼻を付けているのだと思いました。

次に第5回です。第5回はマリ・クリスティーヌ先生の講義でした。マリ先生は、いろいろな国のおどろくような話をしてくれました。この講義で私は、国と国のちがいと外国の子どものつらさを知りました。日本で当たり前の事が、他の国では当たり前ではないことがあると知ってびっくりしました。そして、子どもが働いてお金を稼がないと生きていけない人が多くいると知って、今私が学校に行ったり、こんなふうに勉強ができていることは、きせきのようなことだと思いました。私の学校では募金活動を行っています。1人でも多くの人を救うため、これからも募金をしたいです。

この2つの講義では、近くの人と意見を話し合う時間がありました。自分で考えたり、仲間との交流がとても講義を楽しくしてくれました。これからも仲間を大切に過ごしたいと思います。

私達の日常は当たり前じゃない

わたしは昨年からこども大学よこはまに参加しています。よこはま大学では、知らない子とグループになって、話し合い意見を出し合うのが楽しいです。先生方から話を聞いて、興味が持てた分野もありました。

その中で印象に残ったのが、副島賢和先生の話でした。先生は、院内学級での話をしてくれました。わたしは院内学級を知らなかったのが、驚きました。そして、入院していて、学校に行けない子が病院の中で授業を受けるところだと知りました。

私は健康で、毎日学校で授業を受けたり、給食を食べたりして過ごしています。だから、必ず毎日学校に行ける訳ではないと知り、自分は幸せだなと感じました。さらに、席順にも気を配るとおっしゃっていて、病気の子の気持ちを考えていてすごいなと思いました。講義の後に、ボランティアのことも聞いたので、いつかやってみたいと思っています。

家に帰ってから、ホスピスのことをニュースで取り上げていて、興味を持って見ることができました。ホスピスでは、やってみたかったことをやり、子どもたちは、とても楽しそうでした。花火やキャンプなど、私が当たり前に楽しめることもできないんだなあと思うと悲しくなりました。でも、ホスピスのスタッフが一生懸命夢を叶えてくれて、きっと幸せだったと思いました。

子どもホスピスは、全国的にも数が少なく、経営も大変みたいですが、子どもたちを笑顔にしてくれる素敵な場所なので、ずっと続けて欲しいです。

私は、将来、小児科医になりたいと思っています。沢山の子どもたちが悲しむことがないように、未然に予防ができる医者になりたいです。



感想文集

6年生

受講した感想

私は第1回と、特別ゼミと、第4回と、第5回に参加しました。その中でも特に印象に残ったのは第5回のマリ・クリスティーヌ先生の授業です。マリ・クリスティーヌ先生はひんこんや、かんきょうなど理由で学校にいけない子どもたちや、その地域の人たちをじりつ（自立・自律）できるように手伝っています。私はこの授業を通して、学校に行けるというしあわせや、ふつうににくらせているということは、あたりまえではないということを知りました。他にも世界には、1日に285円以下でしか生活できない人たちがいるという事実をまのあたりにしました。このような事実を知り、私は少しでもその人たちのやくにたちたいと思い、ユニセフのぼきん活動に参加したいと思いました。今まで教わったことを忘れずに、様々なことにはげんでいきたいと思います。

港から学んだこと

私が授業の中で一番心に残っているものは、第4回で三木綾先生の「横浜港の歴史と役わり」についての授業でした。これには2つの理由があります。

1つ目は、私が住んでいる横浜のシンボルとも言える港についてのお話しがあったからです。私はよく友達とコスモワールドに行きます。その周辺が港だと知って、「こんなにも身近に港があるんだ」ととても驚きました。その他にも輸入品の99パーセントが船で運ばれていることを知って港の大切さを改めて実感しました。また、洋服はベトナムや中国などから輸入されていることを知りましたし、食料も私たちの生活にかかせないものが多く外国から輸入されていて外国との交流の必要性を十分感じました。

2つ目は、災害と港・船についての関係で船の重要性を知ったからです。関東大震災での避難所は船だったと言われ疑問に思いましたが、水分や食料など必要な物がそろっていたからという理由を聞いて深く納得しました。他の県と協力して物資をもらいその船で避難民を安全な場所へ運んだという話を聞きました。能登半島地震や東日本大震災など、日本は震災が多い国です。他の県と協力することは今も昔も変わらず重要なことだと思いました。これからも食料などの備えをして防災への意識を高めていきたいと思いました。

2年間を通して

子ども大学を2年間通ってみて思ったことは、楽しいな、もっと色々なことしりたいなと思ったことです。最初は、子ども大学に行きたくないなと思っていたけれど、1回行ってみると、とっても話が面白くて、楽しくて、次はまたかなと、待ちきれなくなることでした。全6回の内、数回ほど、グループで話し合う機会があるのですが、正直、話すのがあまり得意ではない自分も、この子ども大学でなら、たくさん、楽しく話すことができました。4、5、6年生みんなが、学年関係なく、楽しく、授業に取り組めて、とっても楽しかったです。ふだんの学校の授業とはちがい、ふだんなら、絶対、知ることができないことも学ぶことができます。

特に、自分が心に残った授業は、9月末ごろに、さかきはらゼミという、特別な授業がありました。さかきはらゼミでは、どうしたら病気にならない健康的な生活ができるのかということについて考えました。自分は病気のことはあまり知りませんでした。が、色々な人の発表などを聞いて、病気のことをたくさん知ることができました。ふつうの授業とはちがい、ゼミなため少し、ちがったふんいきで授業をすることができました。とっても楽しかったです。

心に残ったじゅ業

僕の心に残ったじゅ業は、「港とわたしたちの生活のかかわりを考えよう！」のじゅ業が一番心に残りました。その理由は、自分の住んでいる横浜の港のことをくわしく教えてもらったりとふだん、なかなかできない体験ができて、とても楽しかったです。ぼくは歴史を調べるのが好きなので、じゅ業が終わった後も横浜の港についてたくさん調べてさらに深めていきたいと思い、たくさんネットで調べたりしました。ぼくは他にも近くにあるしりょう館に行ってさらにくわしくしらべたいと思いました。ただやはり子ども大学で先生にくわしく教えてもらうことが一番くわしく知れると思いました。

子ども大学で学んだこと

子ども大学よこはまの授業に3年間参加して、色々なことを学びました。

今年、一番印象に残った授業は、第4回の横浜港についてと、第5回の世界の子どもたちについてです。横浜港についての授業で、特に心に残ったことは、災害の時にも、港は役立つということです。このことを知るまで私は、港は貿易をするところ、ぐらいしか思っていなかったけど、このことを知り、港は貿易以外にもたくさんのことができてことが分かり、港にとっても興味を持ちました。世界の子どもたちについての授業では、世界中の子どもたちが、どのような問題がある中で暮らしているのか、そして、その問題を解決するために、何をすればいいのかをグループで話し合うことが楽しかったです。

3年間、小学校では学習しない、たくさんのことを学ぶことができ、たくさんのことに興味をもつことができました。とても楽しかったです。

視野が広がった1年

子ども大学に通った1年間はとっても楽しかったです。特に第5回の「世界の子どもたちは今」が楽しかったです。

その中で「アカ族のプアンちゃん」の問題が楽しかったです。班でいっぱい意見をだしあうのが楽しかったからです。

第2回の「チェンジメーカーになろう！」の授業もとっても楽しかったです。

なぜならあの授業は地球環境の問題をさらに深く考えてこれの対処法をどうするかを考えさせる問題だったから楽しかったです。

今までの活動を通してぼくは、やっぱり日本は食品ロスや外国の輸入にたよってはいけないと思いました。

今後ぼくもチェンジメーカーになって世界を変えようと思いました。

ちなみに僕の夢はエンジニアと建築家をまぜたもので、よりよい世界にしていきたいです。

よこはま子ども大学での学び

私は、「よこはま子ども大学」に参加して、自分の知識のはばが広がったと思います。

自分があまり興味がなかったり、調べようとしないうようなことでも、先生方のお話を聞いているうちに興味を持てたり、もっと調べてみたいと思うこともありました。自分から手を伸ばさないこともしることができた、良い機会となりました。

どの先生のお話も、知らないことがたくさんあり、興味をもてました。

特に心に残った話は、マリ・クリスティーヌ先生の「世界の子どもたちは今」です。元々少し興味があり、調べたことのあるような内容でしたが、マリ先生は自分の経験や体験を元に話されていたので、自分が調べたことよりもくわしく知れて、前よりも興味がわいてきました。

自分が調べないことや、先生方の貴重な話が聞けることはめずらしいので、これからもこういう機会を大切にしていきたいです。

